

告示	番号	26	血液疾患
	疾病名	周期性血小板減少症	

周期性血小板減少症

しゅうぎせいけっしょうばんげんしょうしょう

概念・定義

周期性血小板減少症は、血小板減少と正常血小板数への回復が一定の周期で繰り返される血液疾患である。本症の周期形成の機序として、(1) 巨核球の産生変化、(2) 巨核球内での血小板産生変化、(3) 血小板の破壊の変動、が推察され成因の多様性が示唆される。

症状

典型例では3～5週ごとに血小板減少がみられ、特に成人女性では生理期間中に血小板減少がおこることが多い。重篤な血小板減少や著しい反跳血小板増加症が認められることもある。周期性血小板減少症の診断基準に確定的なものはなく、特発性血小板減少症：ITPと判断され治療されていることも多い。血小板増加の時期でも血小板数の最高値が10万/ μ l未満の症例も存在する。また、薬剤やウイルス感染症の影響で血小板数が変動することもあるので、薬剤や感染症の影響がないか、慎重に経過観察する必要がある

治療

無治療経過観察あるいは対症療法が原則である。ステロイドの有効性は低く、脾摘、卵巣摘出はほとんど無効とされる。ガンマグロブリン大量療法が一過性に有効な症例が存在する

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/9_17_29.html